

子宮頸部の病理(5)

分葉状頸管腺過形成(LEGH)と
子宮頸部最小偏倚腺癌(悪性腺腫)

鹿島 大靖 / 塩沢 丹里

Summary

世界保健機関(WHO)分類第4版(2014年)では、子宮頸部粘液性癌の組織型に胃型腺癌が加えられ、同義語として「最小偏倚腺癌(MDA)／悪性腺腫(超高分化型の場合)」と記載されている。MDAは子宮頸部腺癌の1～3%を占め、浸潤能・転移能が高く、抗癌剤感受性が低いことから予後不良とされる。分葉状頸管腺過形成(LEGH)とMDAは組織形態、胃型粘液産生能、ヒトパピローマウイルス(HPV)非依存性などの共通点があるうえにしばしば合併することからLEGHはMDAや粘液性癌の前癌病変である可能性がある。

Key words

子宮頸癌
子宮頸部腺癌
胃型粘液
胃型腺癌
LEGH

はじめに

2014年に改訂された世界保健機関(WHO)分類第4版では、子宮頸部腺癌は内頸部型腺癌・通常型(endocervical adenocarcinoma, usual type)、粘液性癌(mucinous carcinoma)、絨毛腺管癌(villoglandular carcinoma)、類内膜癌(endometrioid carcinoma)、明細胞癌(clear cell carcinoma)、漿液性癌(serous carcinoma)、中腎癌(mesonephric carcinoma)、神経内分泌癌を伴う腺癌(adenocarcinoma admixed with neuroendocrine carcinoma)に分けられ、さらに粘液性癌の組織型には従来通りの腸型(intestinal type)、印環細胞型(signet-ring type)に、新たに胃型(gastric type)が加えられた。胃型腺癌の定義は「胃型の分化を示す粘液性腺癌」とされており、同義語として「最小偏倚腺癌(minimal deviation adenocarcinoma; MDA)／悪性腺腫(adenoma malignum)(超高分化型の場合)」と記載されている。また、分葉状頸管腺過形成(lobular endocervical glandular hyperplasia; LEGH)が前駆病変である可能性があることと、胃型粘液の免疫組織学的マーカーとしてHIK1083が取り上げられている。子宮頸部胃型腺癌病変は20年ほど前から確立されてきた疾患概念であり、それには多くの日本人研究者が貢献していることが広く知られている¹⁾。本稿では、LEGHとMDAについて解説する。

Hiroyasu Kashima

信州大学医学部産科婦人科学教室講師

Tanri Shiozawa

信州大学医学部産科婦人科学教室教授